

平成23年7月(2011年) No.547

## 7月例会までの作品の中から選考

### 7月29日(金)の幹事会で発表会作品選定

昨年はOMC映像フェスティバル50周年記念ということで、思い出の朝日生命ホールで開催した発表会も、今年は例年に戻して大阪市立中央会館で10月2日(第1日曜日)の13時から開催されます。

作品選定は昨年8月例会から今年の7月例会までに上映した例会作品及び撮影会作品の中から選考いたします。選考会は世話役の中の日本アマチュア映像作家連盟所属の会員で構成する幹事会で7月29日(金)の夜を予定しています。

フェスティバル上映を希望してまだ未完成作品の場合は、ぜひ仕上げて頂いて7月例会にお持ち下さい。

作品はミニDVテープ16ビット録音にて統一したいと思います。ブルーレイディスクで上映している関東の例もありますが、大阪ではまだブルーレイディスクの普及がいまひとつなので発表会では使用しません。

今年も伝統のOMC映像フェスティバル発表会の名にふさわしい内容の充実した作品本位にプログラム編成を行いたいと思います。

### ■全日本アマチュア映像作家連盟会長の大役を引受けるハメに

OMC会長 合原一夫

今年1月加藤雅巳会長(97歳)が病死され空席になっていた会長選出がこの6月の総会で合原副会長の会長就任が本決まりとなりました。こういう人事は引き受け手が無く、川上事務局長の健康面の不安もあり、少しでも事務局の仕事のお手伝いを願って引受けたのはいいが、私自身健康面の心配もあって務まるかどうか懸念があります。大阪アマ連、OMCそれぞれ役割分担して自ら進んでやって頂く事を期待してやみません。

### 7月例会と撮影会作品コンテストのお知らせ

7月例会日23日(第4土曜)の13時30分より、白浜撮影会作品コンテストの実施、18時より通常の例会を開催。多くの方のご出席をどうぞ。

## ■幹事会7月29日(金)18時30分より

難波市民学習センターの和室にて開催。  
秋の公開映写会作品プログラム編成と大阪アマ連出品作の選定の件

## ■全国コン入賞おめでとうございます

・伊丹まちなか映像祭

入賞 緑ヶ丘公園の梅花祭

吉岡貞夫さん

## ■玄光社より作品作りの参考になる本出る 「上手い!と言われるビデオの作り方」

内田一夫著。ビデオサロンに連載されていたものを単行本にしてDVDまでつけてこの3月に出版されています。内容は初心者用の基礎編から脚本づくりやナレーションのこと、インタビューのことなど私たちにとって大変参考になる記事が判りやすく書かれていますので、会員の皆さんぜひ購入されてご覧になってください(2100円)

## ■機材オークション結果

①液晶プロジェクター(5万円より)は、希望者がいませんでしたので、このまま「ロッカー」に保管しておきます。希望者が現れるのを待ちましょう。

②DVデッキ(5千円より):岡本さんが最初から希望しており1万円で引き取って頂くことになりました。

## 6月例会のレポート

まだ梅雨明け宣言はありませんが、このところ猛暑続きです。節電とかで電車の冷房も控え目にしているようです。例会場はやはり上着が欲しい位の涼しい環境でした。今月の出席は24名、作品は15本とまずまずの盛会。司会は上田氏、書記、合原氏、機材担当、江村、河合、井上の3氏、受付兼照明係は華岡、宮崎の両氏の担当で会を進行しました。中休み後、前期オークションの開催と7月3日第29回日本を縦断する映像発表会(中央図書館)の紹介が関副会長からありました。

■出席:有村、井上、上田、江村、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、田中、玉井、西村、華岡、船橋、前田、宮井、宮崎、森口、森下、山本、吉岡、渡辺の24氏

■上映作品(講評担当は合原会長です)

## 1. 盆踊り風俗絵巻(SD)

上総修一郎さん

9分00秒

どういうわけか、せっかくの作品が、音かとぎれとぎれしか出てなくて残念なことになりました。絵の方はノイズもなかったので、テープ自体がおかしくなっている筈はないと思いますが、ぜひオリジナルテープまで遡ってチェックしてみてください。作者のご説明によりますと戦後盆踊りが無くなっていたので、ぜひこの町(堺・石津町)にも復活させようと、プロの方に一式来て頂いて盛り上げ再興を図られた記念すべき盆踊りの記録とこのことのように。平成5年というから、18年前の映像でした。

## 2. 映像半世紀(HDV)

有村 博さん

10分00秒

8ミリフィルム時代から今日のハイビジョン映像まで。およそ50年間に亘って映像作品づくりを楽しんでこられた、その歴史を、主にそれぞれの時代に使ったカメラの名称と共に作品を紹介されています。4対3だったフィルム時代からビデオ時代に大きく変わり、VHS、SVHS、8ミリビデオ、Hi8、DV、そして16対9の横長のHDVへと大きく変わりました。映像の画質も飛躍的に向上したことが判ります。この間、私たちはどれだけのカメラや編集機材を買い換えてきたのでしょうか。全く振り回されてきたような気がします。それにしても、古い作品をよく保存し活用されていることに敬意を表します。

## 3. 海の墓標(HDV)

関 剛さん

7分30秒

関さん、今度の旅は道東で、人があまり行かない僻地、野付半島あたりまで行って来られたようです。野付半島には江戸の昔トドマツ、エゾマツの原生林で覆い繁っていたが、地盤沈下で海水が入り立ち枯れてその枯れ木や根株が今も残っていて荒涼たる景観を呈しています。作者は廃船の墓標というべく往時の漁港の風景、次に枯れ木や枯れ株の原生林跡、最後は再び廃船の情景と三つの区分で構成されています。全体として心象風に纏められているのはさすが関さん流です。BGMは前半はテンポの速い曲、中間はゆっくりとしたテンポの心に

ひびく音楽で荒涼とした風景のイメージにぴったりですがだと思いましたが、前後のテンポの速い騒がしい音楽は、少し映像のもつイメージに合わない気がしましたが、BGMについてはするどい感性をお持ちの作者に一度ねらいをお伺いしたいものです。

#### 4. 鞆の浦 (HDV)

吉岡貞夫さん 14分10秒

瀬戸内海国立公園で、日本で最初に指定された国立公園ということです。史跡が多く残され坂本龍馬のテレビドラマが放送されてからは、更に観光客が増え賑やかな観光地のようです。道が狭いので、湾を埋め立てて道路を作る計画があり、それに反対する派があって論争中とのことで、作品は、できれば現状をそのまま保存して欲しいとナレーションで結ばれています。それにしてもよくもくわしく調べて撮影されて、うまく纏められたものと脱帽です。

#### 5. 菅浦の里 (HDV)

紙本 勝さん 10分00秒

琵琶湖の北端に菅浦という集落があり、昭和46年迄は陸路がなく、湖上から船でしか行けない僻地だったとか。作者は、今回はその菅浦へ行き、集落の様子を紹介されています。桜の季節でのどかな里の風景が展開します。適度にインタビューもされて村の人とのふれ合いの状況も伝わってきます。今は魚も獲れなくなって若い人も皆出て行ってしまったとの声印象に残りました。琵琶湖のほとりに、こんな土地があるのか、と改めて感じ入りました。

#### 6. ぶらり久安寺 (HDV)

進藤信男さん 9分46秒

池田市にある北攝の古寺久安寺、花の寺とも呼ばれ、広大な境内のあちこちに花が咲いています。近場にこんな閑静な落ちついた寺があったとは初めて知りました。

作者にしては数少ないノンナレーション作品です。題名からして、ぶらり訪ねられたのでしょうか。それにしても何を伝えたいのか作品の意図が伝わってこないのは残念です。あの場所を訪ねて何を感じたか、素直に自分の言葉でつぶやいてみたら如何でしょうか。きっと作品を見る人にとっても

共感を感じる作品になると思います。

#### 7. 指ハブ (HDV)

前田茂夫 8分40秒

沖縄の石垣島へ旅された作者、そこで旧民家を観光施設としている家を訪ねておられます。縁側でご婦人が「指ハブ」という民芸品というか、おもちゃを作っていました。ハブは沖縄に棲む毒ヘビです。これを模して、阿壇（あだん）という南の島に自生する植物で編まれたおもちゃで、今では石垣島でしか作られていないようです。

作者はインタビューでうまく指ハブのことを聞き出しておられます。ラストカットのお孫さん達が指ハブで遊ぶところは締めくくりのカットとして良かったですね。

#### 8. 青島 (チンタオ) ビール博物館 (HDV)

井上勝彦さん 5分36秒

中国旅順にあるビールの生産工場見学の記録です。元はドイツが工場を造り、日本が引継ぎ、戦後中国に接收されたビール工場のように、今は青島ビール博物館として観光客にも開放されているとか。一般的には工場内生産施設は撮影禁止のところが多いのに、ここは撮影自由だったと語っておられます。もっとも3Dで撮影されたせいもあってか、ロングの全体状景が主でアップが無かったのも、映像としての魅力が少なかったのは止むを得なかった事でしょう。ビールを旨そうに飲む作者の顔のカットが一発あってジ・エンドになれば、ぐつと印象も違ったと思いますが…。

#### 9. 秋色笠置山 (HDV)

河合源七郎さん 6分02秒

河合さんもお元気でよくあちこちの山や辺鄙なところへ出掛けられて撮影されていますね。まずはその辺に敬意を表します。今回は観光客もあまり見当たらない笠置山に登られて、秋色一杯の風景を撮ってこられました。レリーフ等もあるようで昔の話もあるところでしょうね。ノンナレーションなので判りませんが、見終わってあまり印象に残らないのは何故でしょうか。それは作者の作品意図が伝わってこないところにあるのかも知れません。曲がダイナミックな調子に変わったとき地面にズームアップしたその後何に強調されたいのか期待し

たのですが、次の画面は単なる風景でした。

10. 嵯峨野紀行・梅雨の晴れ間に (HDV)

森口吉正さん 8分20秒

森口さんらしく、きっちりと三脚を据えてロングありアップありで映像づくりの基本を守って撮影しておられます。嵯峨野も広いのでややもすると散漫で総花的になりがちですが、作者は対象を絞って判り易く解説されています。梅雨の晴れ間に、相応しい嵐山の舟遊び、竹林と人力車、野々宮神社、落柿舎といった嵯峨野の入口付近にポイントを絞られていました。竹林のところなど小鳥の声を聞かせて BGM を消すなど自然のさわやかさを強調してよかったですと思います。うまく纏められた作品でした。

11. 犬鳴情歌 (HDV)

上田吉巳さん 7分40秒

あるクラブの撮影会作品だそうで、女性モデルを使い犬鳴山七宝瀧寺を舞台に撮影されています。地元の人の作詞作曲で歌は神野美迦というプロの歌う曲がバックに流れ、ところどころ細井靖子さんのナレーションが入り犬鳴山にまつわる話題を解説されます。脚本演出は柴辻英一さんということで、シングル8友の会時代に、よくこうした撮影会を楽しんでいた時のことを思い出しました。気になったところは女性が橋の上で手紙を取り出して破り捨てる行為は現代では相応しくない行為として印象に残るのではと気になりました。

12. 雪の日 (HDV)

江村一郎さん 6分00秒

今年は2月に大阪では数少ない雪が2回も降りました。この雪で多くの方がカメラかついで撮影されたものと思います。江村さんも近場の八尾で雪の日の出来事を撮影されています。単なる風景で終わらないところがさすがですね。ポイントの凍りつくのを防ぐ火が燃えるカットや、葬儀車の出発風景、喪服の人たちなど、印象に残るカットがありました。雪の日でも人々の営みや生活が続けられ、自然は自然で雪に覆われた花のアップなど色々カットをひろわれていました。しかし何か物足りない感じがするのは江村作品への期待過剰？

13. 桜咲く牛滝山へ (HDV)

宮井 健さん 7分20秒

ビデオ仲間と撮影されたときの、主に撮影者の姿を撮った記録作品です。撮影会作品の中には、たまにこうした纏め方をした作品が見られます。後年、あの会員はあゝして元気でビデオをやったなあ、と思いついて出のひと駒になるかもしれませんね。ところで BGM がヴィバルディの有名な四季やメンデルスゾーンの春の景色などクラシックの名曲の間に突然津軽三味線の音が出てきました。画面は仲間たちの撮影会風景が主体なので、仲間の楽し気なおしゃべりを前面に出し、鳥の声などの現場音を出して音楽は控え目で静かなピアノ曲あたりでよかったですのではないかと思います。それにしても皆ビデオを楽しんでいられる様子が伺えて楽しく拝見しました。

14. 旅順 (HDV)

山本正夢さん 6分40秒

作者は今度は中国旅順に行つてこられました。井上さんは同じ旅順でも青島ビール工場見学、山本さんは日本海大海戦の際に激戦地となった二百三高地で戦跡めぐりを描いておられます。画面からも相当の激戦だったことが伺えました。BGM は少し映像の雰囲気合っていないように思いました。もう少し緊迫感のあつて静かな曲がよかつたかなという気がします。しかし珍しい観光地を見せて頂きました。

15. 丹後ドライブ旅行 (HDV)

船橋喜敏さん 18分20秒

まずクレジットタイトルの前に凡そ百字の手書き？のつぶやき文が9秒出ましたが、よく判らないまま画面は進行します。どうやらご夫婦で丹後へ車で旅行されたときの記録のようでした。運転しておられる作者は車内からの撮影は出来ないの、降りてからの観光が主体になります。後半に旅館でくつろぐ夫婦の会話があり、この作品のねらいとなっています。そうなるタイトルもドライブではなく「結婚59年目の旅」といった題名がよいように思います。貴重で思い出多い旅となった事でしょう。字幕がよみづらいのでゴシック活字体の白に黒い縁取りが判り易くていいと思います。